

【愛知所】

請負事業体によるニホンジカ捕獲への協力！ ついで見回りに向けた取組

平成30年度の中部森林管理局の重点取組事項の一つに、国有林内で各事業を実施する請負事業体によるニホンジカの「ついで捕獲・ついで見回り」の試行的な実施があります。

当所では、今年度事業がスタート以降、管内国有林内で事業を実行する各請負事業体に対してこの取組への協力要請を行ってきており、その結果現時点で10社から賛同を頂いています。

今回の取組は、猟友会、請負事業体、当所の三者にとって初めてのことであり、円滑かつ安全な実施に向けては、この三者による事前の十分な打ち合わせが必要であることから、8月29日に当所で開催した「国有林内におけるニホンジカ等の捕獲に関する協定」の締結式にあわせて、猟友会と請負事業体との顔合わせを行いました。



設楽町猟友会と請負事業体等の顔合わせ

この顔合わせには、新城森林組合、(有)根尾開発、(有)サンアイ、(一財)森林・林業調査研究所の4社が出席し、この取組の仲人役である当所の織部調整官からの各社の紹介の後、出席した請負事業体を代表して、新城森林組合の山本勝利代表理事組合長から「これまで国有林で作業をする中で、ニホンジカを見かける機会は多くあった。山を守る仕事をするものとしてニホンジカ対策に協力していきたい。」などの力強い挨拶がありました。

顔合わせのセレモニー後は会場を移して、猟友会と各請負事業体との間で、見回りや通報の方法など詳細の打ち合わせを行いました。その席上、村松猟友会長からは、「ワナ捕獲の際の見回りは猟師にとって大きな負担であり、今回の協力には大変感謝している。」

などが、また、請負事業体からは「国有林でのこの取組がうまくいけば民有林へも広げていきたい」などの発言がありました。

これまで同じ国有林内ですれ違うこともあった者どうしが、こうやって連携していくことで、ニホンジカの捕獲を一層進めることをはじめ、森林、国有林の応援体制構築の一助になるものと期待されます。



設楽町猟友会（右から2人目）との打ち合わせ

